



NPO 法人 和光・緑と湧き水の会 会報発行 2016年2月号 代表理事 高橋絹世 (462-9912)

身近な自然を知って守り伝えよう <http://wako-wakimizu.org/>

	全体会	新倉ふれあいの森	白子・大坂ふれあいの森(地域の会と協力)	樹林公園
28年 2月	埼玉県生物多様性講演会とみどりの再生報告会 1月29日 24日 富沢湧水の高木剪定：早朝	20日 定期保全	13日白子宿富澤保全 モニ1000調査とササ刈り 17日大坂保全協力	
28年 3月	27日(日)カタクリ・ニリンソウを訪ねるエコツアーNPO自然観察指導員埼玉 26日 白子小学校さくら祭り 湧き水展示	19日 定期保全	12日白子宿富澤保全 16日大坂保全	

1. 岩宿遺跡と渡良瀬遊水地・水環境と歴史視察研修会・報告 1月22日

岩宿遺跡と博物館

雪の影響もなく晴天に恵まれた研修日和、白子、上谷津も順調に集まり、乗り心地良い中型バスで出発。目的地岩宿博物館に到着し、熱心な学芸員の説明で遺跡を見学しました。

20歳の青年“相沢忠洋さん”の活躍がさすがらしく心に残る研修会でした。小さなどこにでもありそうな切通しの斜面で、旧石器時代の幕開けを告げる石器「黒曜石」を相沢さんが発見しました。この時まで日本には旧石器時代は存在しないといわれていました。このことが認められるまでには、大変な努力があったことでしょう。発見された場所は、地層とともに現在岩宿ドームとなっています。1万5千年前、小川が流れて

いて、両脇は小高いなだらかな山、そのすそ野の地形を再現した当時のジオラマがあり和光の白子の切通しにも似ていて、大変興味深い見学でした



渡良瀬遊水地・湧水地の歴史と自然

渡良瀬遊水地は、栃木県の南端に位置し栃木・群馬・埼玉・茨城の4県にまたがる33km²、総貯水容量2億m³の我が国最大の遊水地。足尾銅山から渡良瀬川に流れ出した鉱毒による被害は明らかになりました。川の改修や最下流部に遊水地計画が打ち出され、明治40年までに買収され、谷中村は藤岡町に合併廃村となり、昭和5年には渡良瀬遊水地が完成しました。平成24年国際的に重要なラムサール条約湿地に登録されました。明治から昭和まで長い年月をかけて環境回復した典型だと思えます。緑豊かなヨシ原には、貴重な動植物が確認されているそうです。春は野焼きが行われます。研修会には、NPO法人自然観察指導員埼玉会長小峰氏、副会長牧野氏にご説明をいただきました。



とってもかわいい「ミコアイサ」愛称「パンダガモ」や鳶が大空を舞っていました。

昼食には、新田義貞ゆかりの800年の歴史があるという新田乃庄名物「おきりこみ」が用意され、体も心も温かに、楽しみながら学べた研修会になりました。